

令和2年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「 防災へのはじめの一步 」

栃木県 宇都宮大学共同教育学部附属小学校 5年 岩佐 ^{いわさ} ^{あおい} 葵

台風や豪雨による土砂災害のニュースを耳にする機会が増えた。家が押し流され、一面泥だらけになっている映像がテレビでくり返し流されていたが、私にはどこかひとごとだった。自宅は山のふもとでもなく、川の近くでもない。土砂災害の危険にさらされることのない場所だからだ。宇都宮市のハザードマップでその安全性も確認済みだった。

しかし、昨年10月、「想定外」のことが起こった。台風19号が関東を直撃し、浸水や土砂崩れなど大きな被害をもたらしたのである。幸い自宅に被害はなかったが、泥だらけの道路、えぐり取られた川岸、宙に浮いた線路などが目の前に広がっていた。そして、被害にあった多くの人がこう言っていた。

「想定外だった。」

「まさか自分の身に起こるとは考えもしなかった。」

私も被害にあっていたら同じ言葉を口にしただろう。つまり、身近で実際に大きな災害が起こらない限り、自分自身で災害に注意を払い、備えることはほとんどなかったということだと思う。私も自宅近くでこのような大きな被害が出るとは考えもしていなかった。当然、避難する準備もしていなかったし、しようもしなかった。降り続く大雨を窓からながめていただけだった。この台風で、ふだんの生活ではまったく気が付かない危険性が身近にあることに気が付いた。

では、これからどのように災害に備えるべきなのか。もう一度しっかりと考える必要がある。国土の三分の二を森林が占める日本では、様々な要因で土砂災害が発生する可能性が非常に高いという現実を見つめなおさなければならないと感じた。そこで、土砂災害について調べてみた。栃木県のホームページを見ると、「土砂災害とは、大雨や地震が引き金となって、山やがけが崩れたり、水と混ざり合った土や石が川から流れだしたり、火山の噴火などによって尊い命や財産がおびやかされる、自然の災害です。」とある。残念ながら自然災害は発生をおさえることはできない。私たちにできることは、その被害を少しでも減らす努力だけだ。

また、国や地方自治体は土砂災害に対して様々な対策を行っていることに改めて気が付いた。ハード対策として砂防えん堤や擁壁などの整備、ソフト対策として土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域の指定やダイレクトメールによる危険な箇所の周知、土砂災害警戒情報の発表などである。土砂災害警戒区域に指定されている地域のスキー場に行く途中の山道を安全に通行できるのも、そのおかげだったことを知った。一方、私自身でできる対策といえば、土砂災害警戒区域の危険が自分の身に迫った時、一刻も早く避難することしかない。そのために、平時からハザードマップで土砂災害警戒の危険が高い地域を確認しておく必要がある。自宅が安全な場所だからと安心してはいけない。いつ何時、土砂災害が発生するか誰にも分からない。危険地域を偶然通りかかったり、スキーをしたり、登山をしている可能生だって十分にある。地球温暖化など自然環境の変化で「想定外」の災害は身近に起こりうる出来事変わった。土砂災害の前兆や、避難方法、避難場所の再確認など、1人ひとりが自分の安全と命を守るために、自ら災害に向き合い、主体的に行動しなければいけない。また、周りの人に声をかけ一緒に避難することも大切だ。避難すべきか悩んだときは声をかけあい、一緒に早めの避難をすることで大切な命を守ることができる。そのためにも日頃から速やかな避難について話しておくことが重要だ。

私は今まで土砂災害に無関心だったことを反省し、自分ならどうするかを常に考え続けていきたい。そして、この考えを友達などにも伝えていきたいと思う。防災は私自身の一歩からはじめるのだ。